

■ クマの目撃 ■

今年も、裏磐梯ビジターセンターには、ツキノワグマの目撃情報が多く寄せられています。秋田県では、山中でツキノワグマに襲われたとみられる男女4人の遺体が発見され、人的被害もニュースで取り上げられたせいも、裏磐梯ビジターセンターのカウンターでもツキノワグマの出没状況について、お問い合わせをされるお客様が多くいらっしゃいます。

裏磐梯ビジターセンターに寄せられた目撃情報の件数は、7月15日現在で、平成27年が28件、平成28年が31件と少し多めですが、福島県内では、今年に入ってから、6月30日までに、福島県警察本部に寄せられたツキノワグマの目撃情報は221件に上がり、昨年の同時期のおよそ2倍に増加しています。専門家は、「昨秋は木の実が豊作で、ツキノワグマの個体数が増えている可能性があり、今後も冬眠に入る前の夏から秋にかけて、活動がさらに活発になる恐れが高い」と警戒を呼びかけています。



さて、それではツキノワグマに会わないためにはどうしたらよいのでしょうか？まず、クマ鈴や笛、ラジオで音を鳴らしたり、大声で話をしながら歩くことで、自分の存在を知らせましょう。ツキノワグマは、夜間・朝晩に活発に行動しますので、朝や夕方の入山は避けましょう。

それでも、ツキノワグマに遇ってしまったらどうしたらいいのでしょうか？遠くにいるのを発見した場合、あわてずにそっと立ち去りましょう。大声で叫んだり、石などを投げたりすると興奮して危険です。ツキノワグマは背中を見せて逃げるモノを追う習性があります。目をそらさないようにして、ゆっくり後ずさりしながら離れましょう。

■ こんなの見なかった？ ■

裏磐梯でよく見かける不思議なもの…さて、なんでしょう？

森のなかを歩いていると、木の幹や葉の上を歩いているこんな生きものを見たことはありませんか？見つけた瞬間、ぞくぞくしてしまう方もいそうですが、丸くて小さな胴体と長い脚が特徴のユニークな生きものです。

いったい、何の仲間なのでしょう？

- ①クモの仲間
- ②ダニの仲間
- ③サソリの仲間
- ④①～③以外の仲間
- ⑤実は未確認動物



正解は④で、ザトウムシ目に属する「ザトウムシ」という生きものです。脚が8本で、クモによく似た姿をしていますが、クモは頭胸部と腹部の2つにからだがかかっているのに対し、ザトウムシは頭部と胸部と腹部が1つにまとまっています。視力が弱く、一步一步地面を確認しながら歩くその様子を、杖を持ち進む座頭（江戸時代における盲人の階級の一つで、琵琶や三味線、あんまやはりなどを業としていた人々のこと）に例えてこの名が付いたと言われていました。



こう見えて雑食性で、生きた昆虫やミミズを捕まえて食べるほか、昆虫の死骸や糞、腐った木の実なども食べており、森の分解者としても活躍しています。奇妙な姿をしていますが、顔をよく見ると可愛らしいつづらな瞳がキラリと輝くものや、黒っぽくていかついものなど、いろいろな種類があります。こんど出会ったときには、ぜひ足を止めてじっくり観察してみてください。